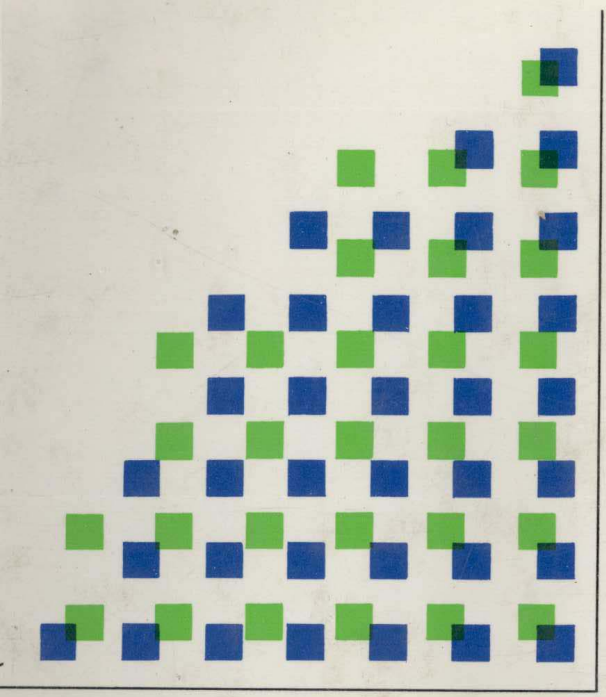
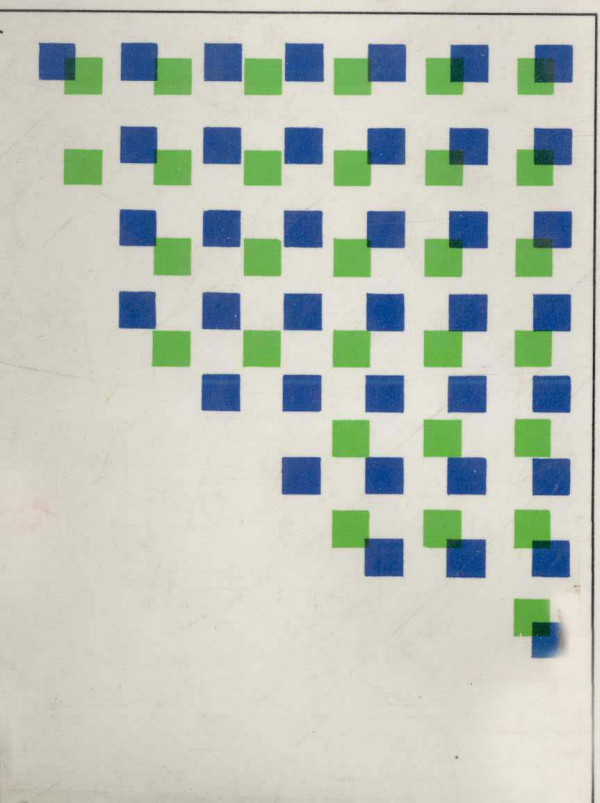
丸茂明則

# 改訂 入門世界経済

## 日本からみた世界の動き





改訂

# 入門世界経済

●日本からみた世界の動き

丸茂明則

中央経済社

改訂 入門世界経済

●日本からみた世界の動き

〈著者略歴〉

丸茂明則（まるも　あきのり）

1929年　東京に生まれる
1955年　早稲田大学政治経済学部卒業
1956年　経済企画庁入庁
1958—59年　国連留学生としてアメリカ商務省に派遣
1970—74年　OECD日本政府代表部勤務
1976年　経済企画庁調査局海外調査課長
1979年　経済企画庁調整局国際経済第一課長

〈主要著訳書〉

「国際経済と貿易」（共著，日本評論社）1965年
「所得政策論争」（シュルツ，アリバー編，共訳，東洋経済新報社）1968年
「第三世界」（P.ユリ著，日本経済新聞社）1977年
「世界経済読本」（共編，東洋経済新報社）1979年

昭和54年8月1日　第1版発行
昭和55年7月5日　改訂版発行

著者　丸茂明則

発行者　渡辺正一

発行所　(株)中央経済社

東京都千代田区神田神保町1—31—2
〒101　電話（293）3371（編集部）
（293）3381（営業部）
振替口座　東京 0—8432
印刷／厚徳社
製本／誠製本

©〈検印省略〉

1033—513018—4621

# はしがき

一九七〇年ごろから、世界経済の流れは大きく変わっている。それまで圧倒的な優位を占めていたアメリカのリーダーシップのもとで、先進国の高成長を中心に順調に発展してきた世界経済も、一九七三年の石油ショック以来　成長率の低下、失業の増大、インフレの昂進に悩まされている。そのうえ、一九七八年末以来のイランの政変を契機として、石油価格が再び大きく値上がりしているだけでなく、将来の石油供給にも不安がもたれるようになっている。

このように多くの問題をかかえている世界経済を、安定した繁栄と成長の軌道にもどすことは可能なのだろうか。

このような情勢のなかで、世界第三の経済大国として、わが国の果たすべき責任も大きい。ところが現実には、ここ二、三年来、日本と欧米諸国の間では〝通商摩擦〟が問題となり、わが国に対する海外の批判が高まっている。

この本は、激動する世界経済の動きを理解し、その中での日本の役割を考えるための入門書である。

入門書だから、決してむずかしいことは書いてないが、事実を平易に解説するというよりも、この本では私自身の考え方をかなりはっきりと書いたつもりである。

私は、一九八〇年代の世界経済は、石油供給の制約、インフレ問題、保護主義の抬頭など、多くの問題をかかえているものの、一九七〇年代にくらべれば安定した発展を実現する可能性を持っていると考えている。そして、そのためには、石油代替エネルギーの開発に全力を挙げるとともに、中進国の追い上げ」におびえることなく、中進国の若々しい活力を、世界経済拡大の大きな力として組み込んでいくことがとくに大切だと思う。

読者は私の意見を批判しながら、いろいろの問題について、自分の考えをまとめるようにしていただきたい。

もとより、石油問題から中国経済にまでわたる広範な問題について、私の知識に不十分な点が多いことは承知しているが、問題の所在と、それについての考えをまとめるための材料は提供しているつもりである。

一九八〇年七月

丸茂明則



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

# 目　次


## 1 世界における日本経済の立場

一　大きく変わった世界経済の流れ・2
二　〝経済大国〟日本の影響力・5
三　世界経済安定のための積極的発言・8
四　世界経済を知るために・11

## 2 なにが世界経済を繁栄させたか

1　高かった経済成長率……14
一　未曽有の高成長・15
二　完全雇用政策・17

三　「雇用法」の制定・20
2　IMF・ガット体制の確立……22
一　「大恐慌」の教訓・22
二　IMF・ガット体制・25
3　高成長をもたらした経済のメカニズム……27
一　民間消費需要の増大・27
二　急テンポの技術革新・29
三　設備投資の増大・31
四　〝好循環〟の展開・32
4　主要国経済の成績（パーフォマンス）……35
一　経済成長率・36
二　物価の安定度・39
三　公　　正・41

## 3　高成長に貢献した世界貿易の拡大

1　世界の貿易と国際収支の考え方……47

一　なぜ貿易は行なわれるか・47
二　国際収支表の見方・50
三　経済発展とともに変化する国際収支構造・54
2　戦後の世界貿易はどのように発展したか……56
一　生産を上回る貿易の伸び・56
二　「労働集約的軽工業品」の急成長・58
三　主要国における輸出増加率のちがい・61
四　世界の輸入需要と日本の輸出の関係・63
五　なぜ貿易摩擦は起きるか・66
3　主要国の貿易の特色……70
一　貿易依存度・70
二　輸出入の商品構成・72
三　水平分業と垂直分業・74

## 4　国際通貨問題——フロート制は有効か

1　固定相場制はなぜ崩壊したか……81

一　国際通貨制度とは何か・81
二　金本位制とその崩壊・83
三　IMF体制の特色と限界・86
四　固定レート制の矛盾・88
五　ニクソン・ショックからフロート制へ・91

2　フロート制下の国際通貨情勢……92
一　フロート制への期待と現実・92
二　フロート制下の為替レート変化・95
三　レート変動の原因（その一）・96
四　レート変動の原因（その二）・99

3　フロート制の国際収支調整効果……101
一　重要な「実質為替レート」・101
二　実質レートの変化と貿易収支・103
三　レート変化は万能薬ではない・108

4　「ドル不安」をもたらしたものは何か……110
一　基軸通貨制度のもつ流動性ジレンマ・110

二　優位性が低下したアメリカ経済・111
三　在外ドル資産の増大・112
四　節度を失ったアメリカの政策・115

## 5 インフレなき成長は可能か

1　インフレーションの原因……119
一　戦後インフレの昂進・119
二　戦後インフレの原因はなにか・121
2　石油危機とスタグフレーション……125
一　二ケタ・インフレはなぜ起きたか・125
二　デフレ政策とスタグフレーション・128
3　各国のインフレ対策とその効果……130
一　多面的なインフレ対策・130
二　総需要管理政策を中心とする米・日・独・132
三　所得政策を重視する英・仏・伊・136
四　イギリスの「社会契約」・138

4 インフレなき成長を求めて……140
一 インフレ対策の基本・140
二 総需要管理政策の限界・141
三 インフレなき成長は可能か・145

## 6 資源不足によって成長はとまるか

1 「成長の限界」論……151
一 ローマ・クラブの「成長の限界」・151
二 一九七二～七三年の食料危機と石油危機・153
三 関心が高まった環境問題・155
四 「限界論」は本当か・158
2 食料、原材料の供給力は不足か?……161
一 〝食料危機〟は一時的なもの・161
二 価格メカニズムによる解決・162
三 非鉄金属も不足していない・164
四 非鉄金属の生産国カルテルは成功しない・166



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

3　エネルギー供給と経済成長……168
一　エネルギー供給は〝限界〟か・168
二　経済成長とエネルギー消費の伸び・170
三　エネルギー高価格時代の到来・173
四　代替エネルギー開発に全力を・174

## 7　南北問題を考える

1　貧困がつづく発展途上国……178
一　拡大する南北格差・178
二　貧困から脱け出せないのはなぜか・181
2　「援助要求」から「新国際経済秩序」へ……188
一　経済援助の理想と現実・188
二　輸出所得の補償――プレビッシュの主張・192
三　資源ナショナリズムと「新国際経済秩序」・195
3　発展格差の発生とその原因……197
一　発展途上国間の成長格差・197

二　発展格差はなぜ生じたか・201
4　経済開発の四つの条件……207

## 8　急増する東西貿易と共産圏経済の実情

1　成長率低下に悩むソ連経済……214
一　計画経済下の高成長――一九七〇年まで・214
二　成長率はなぜ低下したか・216
三　効率の悪い計画経済・219
四　効率化の必要と西側依存・221
2　成長重視に転じた中国経済……222
一　中国経済の現水準と将来性・222
二　中国経済発展の三段階・224
三　華国鋒体制下の「調整政策」・228
3　東西貿易の進展と世界経済……231
一　急増する東西貿易・231

二　ソ連・東欧、中国の貿易構造・233
三　対先進国赤字の増大・235
四　輸出市場としての共産圏・237

## 9 中進国のパワーをどう活かすか

1　大きく変化した世界の生産・貿易構造……241
一　増大する発展途上国の役割・241
二　OPECパワーの抬頭・243
2　中進国の〝追い上げ〟……246
一　めざましい中進国製品の進出・246
二　先進国産業への影響・249
三　先進国の対応――保護主義への動き・252
3　拡大する中進国市場……254
一　激増つづける中進国の工業品輸入・254
二　先進国産業にもプラス・257

4 先進国のとるべき道……259
一 誇張されている〝追い上げ〟・259
二 中進国を包含する国際分業の必要・262

## 10 持続的成長への道——苦悩する先進国経済

1 低下した先進国の経済成長率……269
一 緩慢な景気回復・269
二 アメリカの好調と西欧・日本の不振・271
三 設備投資の停滞・273
2 景気回復はなぜ緩慢か……275
一 インフレ懸念と国際収支赤字・275
二 慎重過ぎた財政政策・277
三 設備の過剰・280
四 景気停滞の国際波及・283

五　〝不確実性〟の増大？・285

3　第二次石油ショック下の世界経済……287

一　第二次石油ショックの発生・287

二　アメリカのインフレ再燃・291

三　再び停滞に向かう世界景気・292

4　持続的拡大への道……294

一　需要は飽和したか・295

二　企業の投資行動は変わったか・298

三　世界経済再拡大の条件・301

# 1 世界における日本経済の立場

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com